

論文審査の要旨

報告番号	乙 第 3003 号	氏名	野 田 主 悦
論文審査担当者	主査 教授 下 司 映 一 副査 教授 福 地 邦 彦 副査 教授 鈴 木 久 義		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>学位申請論文について、上記の主査 1 名、副査 2 名が審査を行った。</p> <p>本論文の要旨は</p> <p>「目的：動脈硬化の指標としてのMRIを用いた大動脈機能解析の再現性を評価するために、繰り返し検査、測定者内計測と測定者間計測の再現性について評価した。方法：MESA studyの参加者25人に対し、大動脈を描出するMRI検査を2回行った。結果：繰り返し検査では、上行大動脈の歪度の再現性は、適度であった($ICC = 0.53, p < 0.01$)。一方、下行大動脈の歪度は、良い再現性であった($ICC = 0.74, p < 0.001$)。PWVも良い再現性であった($ICC = 0.77, p < 0.001$)。また、測定者内計測と測定者間計測の再現性は全ての項目において優れた再現性を示した(測定者内: ICC range, 0.87-0.99; 測定者間: ICC range, 0.56-0.99)。結語：MRI検査は大動脈の構造と機能を再現性良く測定できる方法であり、MESAのような大規模研究において、大動脈機能の小さな変化を検出可能であり、臨床応用可能な検査法である。」である。</p> <p>これについていくつかの質問があった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究は血液データ、超音波による結果との関連性について検討はされているのか。 2. 本研究は死因を病理解剖結果と照らし合わせて検証がなされているのか。 3. 上行大動脈の Strain の結果のみ他の結果と比べ、ICC の値が低かった原因は何か。 4. 動脈硬化を判断するための検査として超音波に代用されると考えられるか。 <p>これらの質問に対して、野田氏は多くの文献を引用しながら適切に回答した。</p> <p>以上の質疑について、主査および両副査により回答の妥当性を確認し、さらに本論文の主張の新規性を確認した。</p> <p>以上の審査結果から、本論文を博士（保健医療学）の学位授与に値するものと判断した。</p> <p>論文題名：Reproducibility of functional aortic analysis using magnetic resonance imaging: the MESA (MRI を用いた大動脈機能解析の再現性について：MESA study)</p> <p>掲載雑誌名：European Heart Journal Cardiovascular Imaging 2016; 17(8): 909-917.</p>			

(主査が記載、500 字以内)